

問題が多すぎる！センスがない！

基準を満たすかを確認するのではなく、試験で分からないところを知り、理解していくことが重要ではないのか

10月11日、名古屋地本は「地本申4号 国交省試験に対して」について業務委員会を開催し年々難易度が上がる知悉確認について問題があるとして議論してきました。

国交省試験なるものではなく、会社が運転従事員としての基準を満たしているかを確認するものということが明らかになりました。組合は問題にセンスがないことを明らかにし本当に必要な確認試験にするように主張しました。

【申し入れと回答】

1. 順列を付けるような試験をやめること。

【回答】現行の通りとする。

2. 再試験を中止し担当者によるフォローに変えること。

【回答】そのような考えはない。

3. 基本的なことを問う、一問一答の簡潔な問題とすること。

【回答】適宜適切に対応している。

4. 問題を精査し見方でどちらともとれるような問題はやめること。

【回答】適宜適切に対応している。

5. 車掌の行う試験は国交省とは関係ないので国交省試験というのを止めること。

【回答】適宜適切に対応している。

6. 試験が終わった後に問題の解説を行い個人のレベル向上を図ること。

【回答】適宜適切に対応している。

7. 試験問題の字が小さい。新聞並に大きくすること。

【回答】適宜適切に対応している。

【主なやりとり】

国交省試験とは何なんだ！

組合：私たちの考え方は、申し入れの前段部分で強く主張しているが、回答とかみ合っていない。

試験の合否が安全運転にも影響を与えている。前向きな議論をしてもらいたい。

会社は国交省試験と称して毎年試験を行っているが、何に基づいて国交省試験と称するのか、現場にはどのように伝えているのか答えること。

会社:国交省試験ではなく「運転関係業務教育訓練取り扱い標準第9条に基づく知識確認」が正式名称である。

組合:「運転関係業務教育訓練取り扱い標準第9条」とは何が書かれているのか。

会社:国交省の省令の中に「運転従事員に教育を受けさせること」(第10条)と書かれている。これを基に標準を定めている。

組合:この取り扱い標準は現場で見ることできるのか。

会社:現場では見られない。知識確認を受けさせる側が知っていればいいものである。

組合:現場の会社掲示には「国交省試験」と書かれている。俗称で掲示を出すのはおかしいではないか。

会社:現場への文章では「国交省試験」という言葉は使っていない。

組合:知識確認で順列を付けているのか。

会社:順列は付けていない。基準を満たすかを見ている。

組合:これによる勤務評価はあるのか。

会社:勤務評価はしない。

問題にセンスがない！

組合:基準と満たすというならば、毎年一定のレベルの問題にすべきではないのか。特に今年は問題の難易度が上がっている。

会社:出題に当たっては、必要な部署が必要な確認をしている。

組合:○とも×と、どちらともれる問題が多い。たとえば異常時の取り扱いの正誤を求める問題で、指令に連絡するという部分が書かれていないときに、×と回答すると、指令に連絡は当たり前のことだから無視して、出題者の意図を踏んで内容で回答すれば正解は○になると言われる。

会社:今後も問題を精査していく。

組合:問題にセンスがない。

会社:精査していく。

57名基準を満たさなかった区所があったことは事実か

組合:名古屋運輸区では57名が基準を満たさなかったというのは事実か。

会社:事実である。

組合:区の質が昨年に比べて急に落ちたのか、問題に不備があったかのどちらかではないのか。この事実に対する危惧はないのか。

会社:名古屋運輸区に対しては大丈夫かと気になっている。

問題の出し方にも問題がある

組合:100問ほどの文章を20分で回答せよでは考えて回答ができない。試験にならないのではないのか。

会社:スピードも知識の一つである。

組合:設問はクセのある問題が多く、単純な回答を求めている。考えなければ回答できない。

会社:知識の確認では、いかに普段に頭の中に入っているかを確認するものである。

組合:現場では、何か事象があったときには手落ちなく考えて、規定を取り出し確認しながら対処するように指導されている。矛盾しているのではないか。

会社:取り扱いの正確性も求めている。

組合:一つの問題で4つの設問があり、3つ正解でも一つ間違えば不正解になっていては、会社が求めている正確な点数が出ないのではないか。25問ではなく100問にすべきではないのか

会社:そのような考え方もある。

間違えて覚えたまま乗務を続けて安全は大丈夫か

組合:知識の確認が終わった後に、自分のできなかったところの勉強をするために問題を配ることはしないのか。

会社:点数をとるための勉強になってしまう。

組合:そうとは思わない。自分のできないところを発見し補っていくのが勉強ではないのか。

会社:すべての規定を勉強すればいいことである。

組合:それでは、いつまでたっても間違った取り扱いが直されないまま、乗務が続くことになる。それが安全といえるのか。

会社:日常普段に修練してもらいたい。

組合:知識の確認の基準を満たしているいないの結果は国交省に報告しているのか。

会社:していない。

組合:明けのコンディションが悪い中で確認がされる。問題の字が小さく見るのにも苦勞している。車掌は必要な規定以外からも出題されている。基準に満たないとされたときは再試験までそれが気になって乗務している。これでは本当の知識がはかれない。また安全にも支障を来している。知識の確認の全てにおいて再考するように伝える。

以上